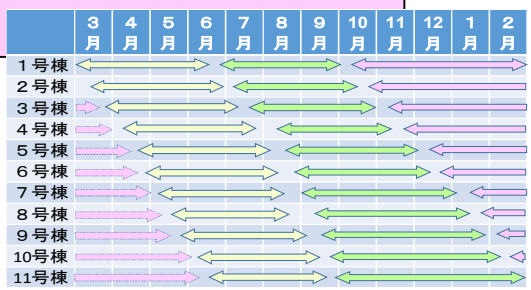
大規模施設園芸生産運営マニュアルの作成

国の次世代施設園芸導入加速化支援事業を活用して整備された次世代施設園芸埼玉拠点（以下、埼玉拠点）では、低段密植栽培によるトマト周年栽培が大規模施設で行われています。

2017 年の開設から３年が経ったので、現時点までに埼玉拠点で得られた知見を「新たに施設園芸に取り組まれる方」や「ステップアップしたい施設園芸生産者の方」にも参考になるように「大規模施設園芸生産運営マニュアル～トマト低段密植栽培を例に～」としてまとめました。

＜実施概要＞年間約 33 回の作付で周年出荷（ハウス 11 棟 3.3ha×年 3 作）
約 100 人のパート従業員を雇用



開設当初の主な問題点
- **収量が低い（病害の発生等で特に夏の収量が低い）**
- **作業の遅れ（作業量に見合った人員配置が難しい・作業精度が低い）**

＜収量向上の取り組み＞

①高温性ピシウム菌対策：施設等の衛生を徹底
②高温対策：細霧冷房や白黒マルチを利用
③苗質改善
④培土の保水性の改善　　等

＜作業効率化の取り組み＞

①パート従業員の教育担当を専任で設置
②作業マニュアルの作成

３年目の成果（１年目との比較）

収量増加：収量が 2 倍になった（8～10 月は 2.5 倍）
労働時間削減：生産物当たり総労働時間が 36%削減された

作成したマニュアルは農研機構ホームページに掲載されています。
http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/134886.html

（次世代技術実証普及担当　TEL 0480-48-6804）